

2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月3日
東

上場会社名 アクシアル リテイリング株式会社 上場取引所
コード番号 8255 URL <https://www.axial-r.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 原 和彦
問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長・CFO (氏名) 山岸 豊後 TEL 0258-66-6711
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	222,945	5.6	10,131	9.1	10,384	9.4	7,006	9.7
2025年3月期第3四半期	211,148	4.0	9,287	△9.0	9,491	△8.7	6,387	△8.0

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 7,370百万円 (15.3%) 2025年3月期第3四半期 6,394百万円 (△9.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	79.04	—
2025年3月期第3四半期	70.55	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	144,469	92,844	64.3
2025年3月期	135,296	89,294	66.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 92,844百万円 2025年3月期 89,294百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	11.00	—	16.00	27.00
2026年3月期	—	13.00	—		
2026年3月期(予想)				16.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	286,000	1.5	11,400	△5.5	12,000	△5.6	8,200	△9.0	92.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	93,552,156株	2025年3月期	93,552,156株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	4,964,668株	2025年3月期	3,804,784株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	88,650,035株	2025年3月期3Q	90,532,390株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、この四半期決算短信【添付資料】8ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	経営成績に関する説明	2
(2)	財政状態に関する説明	6
(3)	連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2	四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1)	四半期連結貸借対照表	9
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
	四半期連結損益計算書	11
	第3四半期連結累計期間	11
	四半期連結包括利益計算書	12
	第3四半期連結累計期間	12
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4)	四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
	(四半期財務諸表等の財務報告の枠組み)	14
	(継続企業の前提に関する事項)	14
	(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	14
	(会計方針の変更)	14
	(会計上の見積りの変更)	14
	(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	15
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15
	(追加情報)	15
	(セグメント情報等)	15
3	補足情報	17
(1)	生産、受注及び販売の状況	17

文中における将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。当該将来に関する事項は、取締役会等の社内の会議体で合理的な根拠に基づく適切な検討を経たものであり、検討にあたっては、当社グループの事業所ごとに事業を取り巻く環境、事業計画、その他関連する諸条件を総合的に勘案して判断しております。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

当社グループは、スーパーマーケットの経営を事業主体としており、店舗「原信」「ナルス」「フレッセイ」を各地に出店しております。

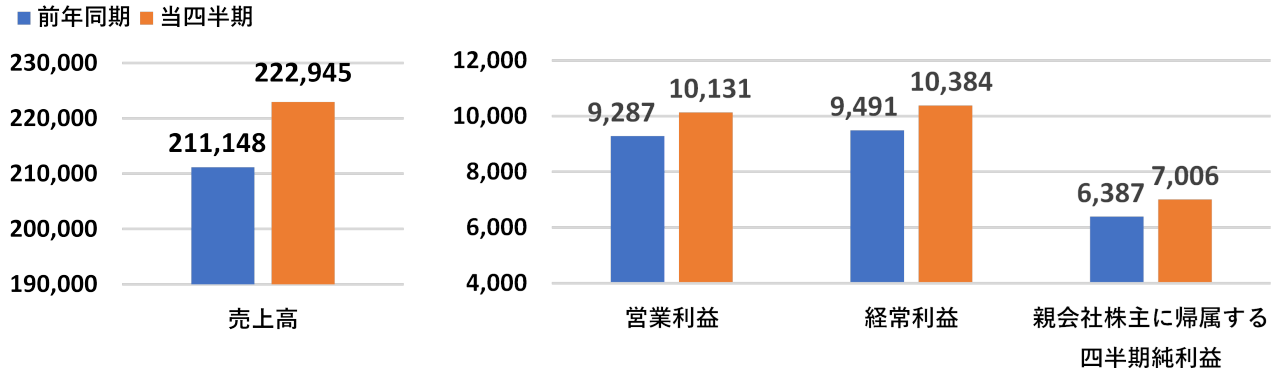
1 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、持続的な賃上げや活発な投資がけん引する成長型経済への転換を図るための経済政策が進みつつありますが、物価上昇が高い水準で継続しており、財政規律を保ちながら必要な改善策を講じることが課題となっております。また、経済の先行きについて、米国や中国の対外政策、中東・ウクライナ情勢など、諸外国の動向が及ぼす影響の見通しが不透明となっております。

このような状況において、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結経営成績は、売上高が2,229億45百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益が101億31百万円（前年同期比9.1%増）、経常利益が103億84百万円（前年同期比9.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が70億6百万円（前年同期比9.7%増）となり、売上高は、第3四半期連結累計期間として過去最高の実績を確保することができました。また、1株当たり四半期純利益は79円4銭となりました。

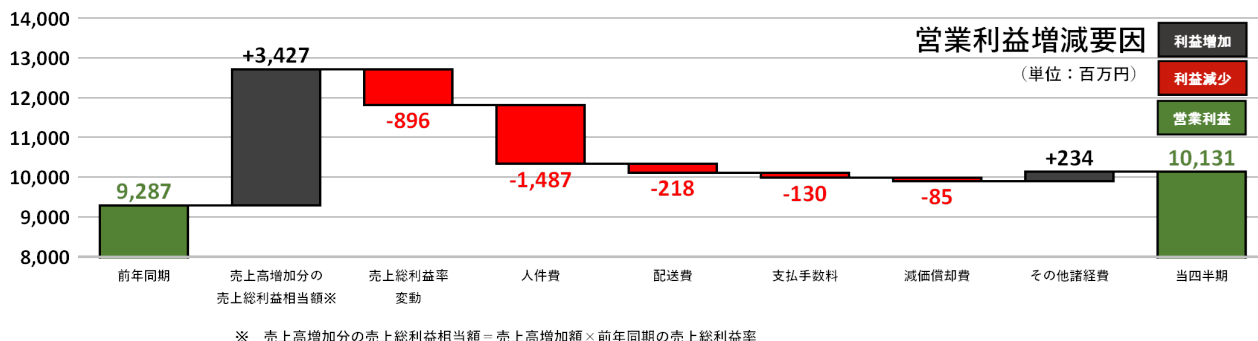
損益増減（単位：百万円）



当連結会計年度においては、当社グループの各出店地域で、競合他社の新規出店・改装が過去にないほど多く実施され、今後も予定されております。こうした状況に対し、営業政策として、低価格競争には正面から徹底的に向き合い、お客様にお薦めしたい価値ある商品を他社に負けない価格でご提供するとともに、競争原資を捻出するためのオペレーションや販売方法の改善・工夫を進めております。併せて、単なる価格競争に終始するだけではなく、当社グループの特徴である「豊かさ、楽しさ、便利さ」をご提供する商品、サービスの強化に一層努めており、当社グループの良さをアピールし、他社店舗を越えてでも当社グループ店舗にご来店いただけるよう注力しております。加えて、近年、特に力を入れて進めております商品力強化の施策「おいしさ企画化計画」を推進することで、お客様に感動していただけるような、我が社なりの特徴、こだわりを持った独自商品を店頭に次々と送り出し、お客様から大変ご好評を得ております。なお、客数につきましては、“原信ナルスアプリ”のリニューアルに伴う機能見直しのため来店特典である「ご来店スタンプ」を廃止したことで、原信とナルスが一時的に下振れする影響を受けております。

このような攻めの営業政策により、売上総利益率は前年同期に比べ低下いたしましたが、他社を上回る当社グループの良さをご評価いただいたことにより、売上高、並びに、売上総利益は、第3四半期連結累計期間として過去最高となりました。

また、攻めの営業政策を実現するための原資として、諸経費の統制・削減、デジタル化の推進、労働時間管理等、コスト・コントロールを徹底したことにより、諸経費の増加を吸収し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、いずれも前年同期を上回る実績を確保することができました。



販売費及び一般管理費につきましては、以下の主な要因により前年同期に比べ増加しております。

人件費の増加は、前向きな賃上げ実施と社会保険料の増加によるものであります。配送費の増加は、燃料価格、物流委託契約料の上昇によるものであります。減価償却費の増加は、近年の設備投資によるものであります。支払手数料の増加は、キャッシュレス決済の増加によるものであります。

当第3四半期連結累計期間における各セグメント別の連結経営成績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメント別の経営成績につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① スーパーマーケット

(全般)

当第3四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の経営成績は、売上高が2,225億58百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益が100億12百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間におきましては、前連結会計年度に取り組んだ方針を踏襲し、一層深耕することを目指して、下記のとおり年度方針を掲げております。

年度方針

「もっと おいしさがドまん中大作戦！！」～ “いかす” アクシアルへ ～

重点施策

《インフラを活かす》当社のグループ規模、機能を最大限に活用したマスメリットの創出による売上高、売上総利益の最大化と費用の削減

《人材を活かす》働きがいのある職場環境づくり、様々な能力を持った人材の獲得・育成・活用、コミュニケーションの活性化による組織全体のパフォーマンス向上

《イカす！！アクシアル》他社との差別化を図り、お客様よりご評価いただける営業施策の推進

これら取組みにより、環境が大きく変化する状況にあっても、規模・機能・人材を活かして変化に対応し、お客様に感動していただけるような我が社なりの特徴、こだわりを持った商品を一層お届けすることで、毎日の生活の「豊かさ、楽しさ、便利さ」を実現できるように取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間における業績の内容、取組みに関する事項は、以下のとおりであります。

(販売指標に関する動向)

当第3四半期連結累計期間の販売指標等は以下のとおりであります。

項目		当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	前年同期比
期末店舗数	グループ合計	130店舗	—
	内訳 (原信)	67店舗	—
	(ナルス)	13店舗	—
	(フレッセイ)	50店舗	—
店舗売上高	全店	220,234百万円	106.2%
	既存店	215,816百万円	105.5%
来店客数	全店	8,516万人	99.4%
	既存店	8,345万人	99.3%
客単価	全店	2,586円	106.8%
	既存店	2,586円	106.2%
買上点数	全店	11.66点	102.5%
	既存店	11.65点	102.5%
一品単価	全店	221.86円	104.2%
	既存店	221.89円	103.7%

- (注) 1 記載数値は、「収益認識に関する会計基準」等に基づく調整前の数値で記載しております。
2 店舗数は、当第3四半期連結会計期間末現在におけるスーパーマーケットの設置店舗数であり、他業態の設置店舗数(100円ショップ2店舗)は含みません。
3 店舗売上高、来店客数、客単価、買上点数、一品単価は、スーパーマーケット店舗のみの数値であります。
4 客単価は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった金額の平均であります。
5 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった商品数の平均であります。
6 一品単価は、お客様がお買い上げになった商品の一品当たり金額の平均であります。
7 既存店は、店舗開設より満13ヶ月以上を経過した店舗であります。

(出店・退店等)

出店、並びに、退店につきましては、該当ありません。

改装につきましては、フレッセイ富塚店(2025年7月、群馬県伊勢崎市、売場面積1,962㎡)、並びに、原信美沢店(2025年9月、新潟県長岡市、売場面積2,086㎡)について実施いたしました。



【フレッセイ 富塚店】



【原信 美沢店】

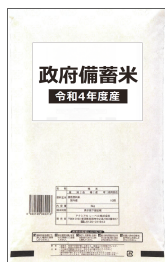
(直接輸入の開始)

輸入商品は、従来、仲介業者様の力を借りて調達しておりましたが、このたび初めて、仲介業者様を通さず海外の輸出事業者様と当社グループが直接取引を行う直接輸入を実現いたしました。

当社グループの規模をもっても、この取組みは容易ではありませんでしたが、他社との差別化や利益率の向上を図るため、数年前から、商品の開拓や組織体制の整備、ノウハウの蓄積を進めた結果、実現に至りました。この実現により、チェーンストアとしてのマスメリットを活かす機能をまた一つ整えることができ、お客様に一層喜んでいただける商品をお届けしたいと考えております。



(政府備蓄米の販売)



2025年5月に政府が開始した“随意契約による政府備蓄米の売渡し”について、当社グループは、米の流通改善に向けた政府の政策趣旨に賛同し、買受者の資格条件である年間10,000トン以上の米穀の取扱実績又は取扱見込みを満たす大手小売事業者として申込みを行い、1,610トンを買受けました。

この後、精米事業者や包装資材の確保に困難を極めました。2025年6月初旬より段階的に、お客様へ政府備蓄米をお届けいたしました。

(アプリ更新)



当社グループでは、お客様にお買い物の楽しさ、便利さをご提供するための販売促進ツールとして、スマートフォン向けアプリケーションである「原信ナルスアプリ」と「フレッシュアプリ」をご提供しております。

このうち、原信ナルスアプリについて、4月に全面リニューアルを実施いたしました。

今回の更新では、見やすさ・分かりやすさを高めるための表示変更、割引クーポン体系の改変、利用可能なバーコード決済サービスの追加等、新機能の追加、機能改善を図るとともに、セキュリティと不正防止の機能強化を図っています。

(ブランディング戦略)

競合他社との違いを明確にし、お客様に「豊かさ、楽しさ、便利さ」をご提供するための施策のひとつとして、当社グループでは、原信ナルス、フレッシュのブランディング戦略を推進しております。

これに基づく当社グループが独自展開する商品ブランドには、様々なコンセプトや価格帯等でカテゴライズしたものがあありますが、2025年の秋に新しいスイーツのブランドを立ち上げました。

Pont de Peinture (ボン・デ・パンチュール)



この銘は、フランス語で「橋の絵」を意味します。これには、自社製造のスイーツが新潟県長岡市にある長生橋のたもとで創業した由縁があることに加え、“絵画を眺めながらゆったりとした時間を過ごすような、そんなひとときにおすすめするスイーツを・・・”という想いを込めております。

現時点では販売する品目、取扱い店舗が限られておりますが、順次、販売体制の拡大と品目数の拡充を進めてまいります。



② その他

(全般)

当第3四半期連結累計期間におけるその他の事業の経営成績は、売上高が42億58百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益が2億99百万円（前年同期比20.4%減）となりました。

(情報処理事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、情報処理収入が伸長し前年同期より増加いたしました。一方、外部顧客向けの販売は、スーパーマーケット事業の基幹システム改修に開発人員を振り向け外部顧客向けの情報システム開発を縮小したため前年同期より減少いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ2.1%増加いたしました。

なお、当事業を担うアイテックは、設備更新、機能拡充のため、2025年5月に本社を移転（新潟県長岡市中興野16番地1）いたしました。この本社移転に関係し一時的な費用が生じたため、営業利益は、前年同期に比べ52.5%減少いたしました。



(印刷事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、印刷物や各種メディア媒体の受注が増えたため増加いたしました。一方、外部顧客向けの販売は、印刷物やイベント企画の受注が減り減少いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ3.4%増加し、営業利益は、前年同期に比べ13.5%増加いたしました。

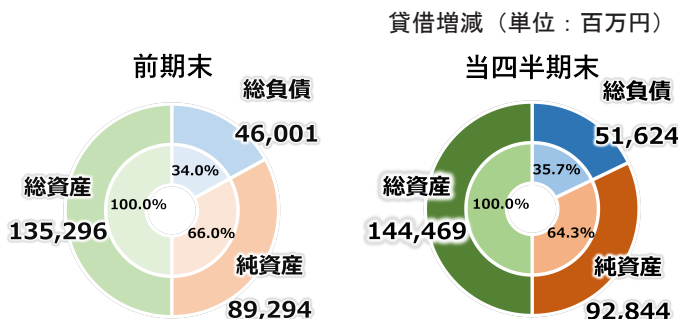
(清掃事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、安定した受注を受け前年同期に比べ増加いたしました。一方、外部顧客向けの販売は、リサイクル資材の販売単価が下落し前年同期に比べ減少いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ2.1%増加いたしました。営業利益は、前年同期に比べ1.9%減少いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第3四半期連結会計期間末における連結財政状態は、総資産が1,444億69百万円（前連結会計年度末比91億73百万円増）、総負債が516億24百万円（前連結会計年度末比56億23百万円増）、純資産が928億44百万円（前連結会計年度末比35億49百万円増）となりました。また、1株当たり純資産額は1,048円5銭となり、当第3四半期連結会計期間末におけるPBR（株価純資産倍率）は1.10倍となりました。



当第3四半期連結会計期間末における連結財政状態全般の各項目の内容を示すと、次のとおりであります。

(総資産)

流動資産は502億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ106億91百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が、営業キャッシュ・フローの要因により前連結会計年度末に比べ73億17百万円、売掛金が年末商戦により19億72百万円それぞれ増加したこと、並びに、棚卸資産が、年末年始商戦への対応と売場面積の増加及び原料原価の値上がりにより前連結会計年度末に比べ14億87百万円増加したことによるものであります。なお、流動資産の構成比は、前連結会計年度末に比べ5.5ポイント増加し34.8%となりました。

固定資産は941億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億18百万円減少いたしました。その内容は次のとおりであり、固定資産の構成比は、前連結会計年度末に比べ5.5ポイント減少し65.2%となりました。

有形固定資産は756億29百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億2百万円減少いたしました。これは主に、減価償却によるものであります。

無形固定資産は32億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ19百万円増加いたしました。これは主に、ソフトウェアの取得によるものであります。

投資その他の資産は152億81百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億35百万円減少いたしました。これは主に、繰延税金資産が、税効果会計上の一時差異の解消により前連結会計年度末に比べ7億29百万円、敷金及び保証金が、約定償還により前連結会計年度末に比べ2億77百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(総負債)

流動負債は378億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ60億76百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が、商品仕入高の増加により前連結会計年度末に比べ71億82百万円増加したことによるものであります。なお、流動負債の構成比は、前連結会計年度末に比べ2.7ポイント増加し26.2%となりました。

固定負債は137億83百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億53百万円減少いたしました。これは主に、リース債務が、返済により前連結会計年度末に比べ1億86百万円減少したこと、並びに、長期預り保証金が、約定償還により前連結会計年度末に比べ2億64百万円減少したことによるものであります。なお、固定負債の構成比は、前連結会計年度末に比べ1.0ポイント減少し9.5%となりました。

(純資産)

株主資本は903億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億86百万円増加いたしました。増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上70億6百万円であり、減少要因は、剰余金の配当25億87百万円、並びに、自己株式の取得12億32百万円であります。

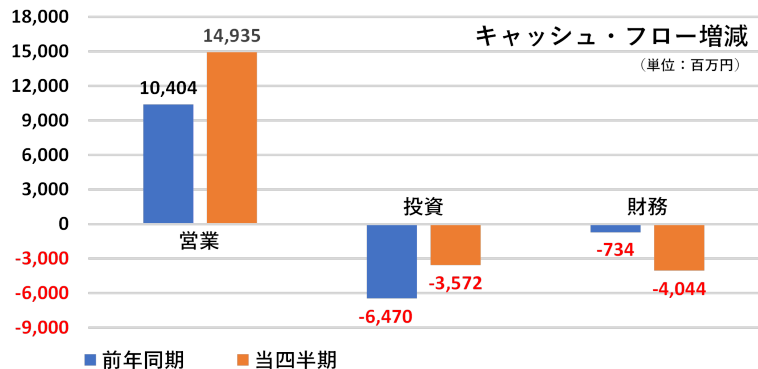
その他の包括利益累計額は25億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億63百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が、保有する投資有価証券の時価総額の増加により前連結会計年度末に比べ4億25百万円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.7ポイント減少し64.3%となりました。

② キャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます。）は、292億4百万円（前連結会計年度末比73億17百万円増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における連結キャッシュ・フロー全般の各項目の内容を示すと、次のとおりであります。



(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は149億35百万円となり、前年同期に比べ45億30百万円増加（前年同期比43.5%増）いたしました。これは主に、営業債権と営業債務の増減額が、前年同期と当第3四半期連結累計期間の曜日周りの違いにより未決済部分の差異が生じたこと、法人税等の支払額が、中間納税額と確定申告額の関係により前年同期に比べ6億96百万円減少したこと、並びに、経常利益の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は35億72百万円となり、前年同期に比べ28億98百万円減少（前年同期比44.8%減）いたしました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が、前年同期における新本社への投資の反動及び店舗への設備投資時期の関係で前年同期に比べ27億76百万円減少（前年同期比44.5%減）したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は40億44百万円となり、前年同期に比べ33億10百万円増加（前年同期比450.7%増）いたしました。これは主に、配当金の支払額が、増配により前年同期に比べ3億24百万円増加したこと、並びに、自己株式の取得による支出が、取締役会決議に基づく自己株式の取得（約定日基準による取得期間：2025年2月5日から2025年8月31日、取得しうる株式の総数上限200万株、株式の取得価額の総額上限20億円）を実施したことにより、前年同期に比べ12億82百万円増加したことによるものであります。なお、本自己株式の取得につきましては、2025年4月28日約定の買付けをもって、取得価額の上限に達したため終了しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

① 連結業績予想

(通期)

項目	予想値 (2026年3月期) (百万円)	前連結会計年度比 (2025年3月期比) (%)
売上高	286,000	101.5
営業利益	11,400	94.5
経常利益	12,000	94.4
親会社株主に帰属する当期純利益	8,200	91.0

② 連結業績予想の前提条件

(全般)

売上高につきましては、近年の新規出店、並びに、昨今の堅調な販売動向を踏まえた既存店の売上増加により、前連結会計年度と比較して増加を見込んでおります。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、中間連結会計期間において主力店舗のうち2店舗が建替え並びに大規模改装のため長期休業をすること、競合の新規出店による競争激化への対応強化を図ること、前向きな賃上げの実施及び社会保険料負担の増加による人件費増加等が営業利益を圧迫することを見込んでいるため、前連結会計年度と比較し減少を見込んでおります。

(売上高予想の前提となる店舗売上高の見通し)

業績予想の基本となる店舗売上高については、次のとおり見込んでおります。

項目	前連結会計年度比 (2025年3月期比)	
	全店 (%)	既存店 (%)
通期	102.2	101.5

③ 当連結会計年度の業績予想に対する実績の状況

当連結会計年度の業績予想(2025年5月7日付公表)に対する当第3四半期連結累計期間の実績は、以下のとおりとなりました。

項目	通期予想値 (A)	当第3四半期実績値 (B)	進捗率(%) (B) / (A)
売上高 (百万円)	286,000	222,945	78.0
営業利益 (百万円)	11,400	10,131	88.9
経常利益 (百万円)	12,000	10,384	86.5
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	8,200	7,006	85.4

現時点の状況は概ね良好であると考えております。なお、進捗率が高めとなっておりますが、当第4四半期連結会計期間においては、以下の特有の諸費用の発生等を見込んでいるため、業績予想値について変更はしていません。

- ・ 天候予見を踏まえた除雪費用
- ・ 移転新設する店舗の開店費用
- ・ 従業員給付の諸施策
- ・ 期末時点における固定資産の減損の再評価

④ 注意事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は既知及び未知のリスク、不確実性及びその他様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、当社グループが認識している事業等のリスクにつきましては、当社の有価証券報告書をご参照ください。

2 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,887	29,204
受取手形及び売掛金	7,224	9,197
リース投資資産	358	300
商品及び製品	5,714	7,063
仕掛品	12	42
原材料及び貯蔵品	358	466
未収還付法人税等	0	50
その他	4,053	3,974
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	39,605	50,297
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	48,971	47,411
機械装置及び運搬具（純額）	1,152	1,131
土地	20,863	21,070
リース資産（純額）	1,369	1,265
建設仮勘定	1,028	1,589
その他（純額）	3,346	3,161
有形固定資産合計	76,732	75,629
無形固定資産		
のれん	1	0
その他	3,239	3,259
無形固定資産合計	3,241	3,260
投資その他の資産		
投資有価証券	3,778	4,397
長期貸付金	3	4
退職給付に係る資産	599	598
繰延税金資産	3,897	3,168
敷金及び保証金	6,567	6,289
その他	885	838
貸倒引当金	△15	△15
投資その他の資産合計	15,716	15,281
固定資産合計	95,690	94,172
資産合計	135,296	144,469

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,630	25,812
契約負債	680	747
リース債務	268	278
未払法人税等	1,781	1,259
役員賞与引当金	317	245
賞与引当金	2,301	940
その他	7,785	8,557
流動負債合計	31,765	37,841
固定負債		
リース債務	2,038	1,852
資産除去債務	6,193	6,198
長期預り保証金	5,884	5,620
退職給付に係る負債	1	1
その他	118	110
固定負債合計	14,236	13,783
負債合計	46,001	51,624
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	15,749	15,749
利益剰余金	71,738	76,157
自己株式	△3,494	△4,727
株主資本合計	87,153	90,339
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,746	2,171
退職給付に係る調整累計額	394	333
その他の包括利益累計額合計	2,141	2,504
純資産合計	89,294	92,844
負債純資産合計	135,296	144,469

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	211,148	222,945
売上原価	149,800	159,066
売上総利益	61,347	63,879
販売費及び一般管理費		
従業員給料	7,697	8,022
雑給	15,229	16,091
役員賞与引当金繰入額	249	245
賞与	1,854	1,950
賞与引当金繰入額	855	870
退職給付費用	436	439
地代家賃	4,170	4,144
減価償却費	3,933	4,019
のれん償却額	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0
その他	17,632	17,962
販売費及び一般管理費合計	52,060	53,747
営業利益	9,287	10,131
営業外収益		
受取利息	21	31
受取配当金	73	96
受取保険金	108	67
違約金収入	1	89
その他	48	63
営業外収益合計	255	347
営業外費用		
支払利息	37	34
自己株式取得費用	—	49
その他	12	10
営業外費用合計	50	94
経常利益	9,491	10,384
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
固定資産除却損	8	15
減損損失	7	0
投資有価証券評価損	0	0
特別損失合計	16	16
税金等調整前四半期純利益	9,478	10,368
法人税、住民税及び事業税	2,330	2,800
法人税等調整額	760	561
法人税等合計	3,090	3,361
四半期純利益	6,387	7,006
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,387	7,006

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	6,387	7,006
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	83	425
退職給付に係る調整額	△76	△61
その他の包括利益合計	7	363
四半期包括利益	6,394	7,370
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,394	7,370
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,478	10,368
減価償却費	4,278	4,421
減損損失	7	0
のれん償却額	0	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△10	0
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△74	△71
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,666	△1,361
退職給付に係る資産及び負債の増減額	△100	△88
受取利息及び受取配当金	△95	△127
支払利息	37	34
固定資産除却損	8	15
投資有価証券売却損益 (△は益)	△2	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,411	△1,972
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,607	△1,487
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,856	7,182
未払又は未収消費税等の増減額	170	365
リース投資資産の増減額 (△は増加)	48	60
その他	402	775
小計	14,319	18,118
利息及び配当金の受取額	75	109
利息の支払額	△30	△28
法人税等の支払額	△3,960	△3,263
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,404	14,935
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	2	—
投資有価証券の売却による収入	3	—
有形固定資産の取得による支出	△6,242	△3,466
無形固定資産の取得による支出	△401	△333
貸付けによる支出	△3	△2
貸付金の回収による収入	4	2
敷金及び保証金の純増減額 (△は増加)	295	295
その他	△127	△68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,470	△3,572
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,700	—
リース債務の返済による支出	△202	△206
自己株式の取得による支出	△0	△1,282
配当金の支払額	△2,231	△2,556
財務活動によるキャッシュ・フロー	△734	△4,044
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,199	7,317
現金及び現金同等物の期首残高	21,019	21,887
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,218	29,204

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期財務諸表等の財務報告の枠組み)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準(ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。)に準拠して作成しております。

(継続企業の前提に関する事項)

当第3四半期連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1 連結の範囲の重要な変更

重要な連結の範囲等の変更はありません。

2 持分法の適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

重要な会計上の見積りの変更はありません。

なお、スーパーマーケット事業における減価償却資産のうち有形固定資産の一部について、経済的使用可能予測期間に基づく残存耐用年数に関する会計上の見積りの変更を行い、耐用年数の変更を行っております。この結果、変更前に比べ、販売費及び一般管理費(減価償却費)が0百万円増加し、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益がそれぞれ0百万円減少しております。翌連結会計年度以降の連結財務諸表に与える影響は軽微であるため、記載を省略しております。

また、スーパーマーケット事業における店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務の一部について、処分方針の決定に伴い解体撤去等に係る見積書等の新たな情報の入手を行い検討した結果、資産除去債務の計算基礎となる除去費用に関する会計上の見積りの変更を行い、資産除去債務の計上金額に関する変更を行っております。この結果、変更前の資産除去債務残高に1百万円を加算し24百万円を減算しており、販売費及び一般管理費(減価償却費等)が20百万円減少し、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益がそれぞれ20百万円増加しております。翌連結会計年度以降の連結財務諸表に与える影響は軽微であるため、記載を省略しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客への売上高	210,618	210,618	530	211,148
セグメント間の内部売上高又は振替高	103	103	3,630	3,733
合計	210,721	210,721	4,160	214,882
セグメント利益	9,039	9,039	375	9,414

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額
報告セグメント計	9,039百万円
「その他」区分の利益	375百万円
セグメント間取引消去	△6百万円
全社費用	△656百万円
その他の調整額	534百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	9,287百万円

(注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。

2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社(持株会社である当社)に係るものであります。

3 その他の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社(持株会社である当社)に対する経営指導料支払額の消去であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

5 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な影響を及ぼすものはありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客への売上高	222,455	222,455	490	222,945
セグメント間の内部売上高又は振替高	102	102	3,767	3,870
合計	222,558	222,558	4,258	226,816
セグメント利益	10,012	10,012	299	10,311

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

利益	金額
報告セグメント計	10,012百万円
「その他」区分の利益	299百万円
セグメント間取引消去	0百万円
全社費用	△709百万円
その他の調整額	530百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	10,131百万円

(注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。

2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に係るものであります。

3 その他の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に対する経営指導料支払額の消去であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

5 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な影響を及ぼすものはありません。

3 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目			前第3四半期 連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期 連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)		前年同期比	
			金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
スーパー マーケット	生鮮食品	青果	27,160	12.6	28,617	12.6	1,456	105.4
		精肉	24,055	11.2	25,866	11.4	1,811	107.5
		水産	22,248	10.4	22,897	10.1	648	102.9
		惣菜	23,061	10.7	24,579	10.9	1,517	106.6
		計	96,526	44.9	101,960	45.0	5,433	105.6
	一般食品	デイリー	44,254	20.6	46,297	20.4	2,043	104.6
		加工食品	54,192	25.2	58,293	25.7	4,100	107.6
		インスタ ペーカリー	4,227	2.0	4,444	2.0	217	105.1
		計	102,674	47.8	109,035	48.1	6,360	106.2
	住居		6,515	3.0	6,571	2.9	55	100.9
	衣料品		66	0.0	53	0.0	△12	81.2
	その他		227	0.1	217	0.1	△9	95.7
	営業収入		4,608	2.2	4,617	2.0	9	100.2
	セグメント間の 内部売上高又は振替高		103	0.1	102	0.0	△0	99.3
	小計		210,721	98.1	222,558	98.1	11,836	105.6
その他	外部顧客に対する売上高		530	0.2	490	0.2	△39	92.5
	セグメント間の 内部売上高又は振替高		3,630	1.7	3,767	1.7	137	103.8
	小計		4,160	1.9	4,258	1.9	97	102.4
合計			214,882	100.0	226,816	100.0	11,934	105.6

② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目			前第3四半期 連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期 連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)		前年同期比	
			金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
スーパー マーケット	生鮮食品	青果	20,169	13.3	21,371	13.3	1,201	106.0
		精肉	18,934	12.4	20,518	12.7	1,584	108.4
		水産	15,754	10.4	16,205	10.1	451	102.9
		惣菜	13,068	8.6	13,947	8.7	879	106.7
		計	67,926	44.7	72,043	44.8	4,117	106.1
	一般食品	デイリー	32,421	21.3	33,982	21.1	1,560	104.8
		加工食品	41,559	27.4	44,773	27.8	3,214	107.7
		インスタ ペーカリー	1,648	1.1	1,727	1.1	78	104.7
		計	75,629	49.8	80,482	50.0	4,853	106.4
	住居		4,974	3.3	5,007	3.1	33	100.7
	衣料品		47	0.0	38	0.0	△9	80.6
	その他		75	0.1	78	0.1	2	103.5
	リース原価		66	0.0	60	0.0	△6	90.7
	セグメント間の 内部仕入高又は振替高		200	0.1	200	0.1	0	100.2
	小計		148,920	98.0	157,912	98.1	8,992	106.0
その他	外部取引先からの仕入高		2,558	1.7	2,704	1.7	146	105.7
	セグメント間の 内部仕入高又は振替高		473	0.3	422	0.2	△51	89.1
	小計		3,032	2.0	3,126	1.9	94	103.1
合計			151,952	100.0	161,039	100.0	9,086	106.0